


(協働版)

※ (協働版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。

京都市 景観情報共有システム

検索

■嵯峨学区（全体）

1 祭事・伝統文化

凡例：

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報

祭事

嵯峨祭

600年から催されている愛宕、野宮両神社の祭礼。
神幸祭（毎年5月第3日曜日）には、清凉寺前の御旅所に2基の神輿が並び、還幸祭（毎年5月第4日曜日）には、神輿と5本の剣鉾、稚児行列など総勢1200名ほどが嵯峨一帯を巡行。現在では珍しい神仏習合を今も保っており、2基の神輿は大覚寺にて祈禱を受ける。¹⁻¹⁾



嵯峨学区地域の5本の鉾差しは、市無形民俗文化財に指定されている。



松尾芭蕉の「嵯峨日記」にも、この祭を見学したという記録が残るなど昔から有名な祭である。

伝統文化（元嵯峨3学区）



清凉寺 お松明式

毎年3月15日に行われ、京の三大火祭のひとつ。高さ7メートルの3本の松明に点火し、火勢の強弱でその年の農作物の豊凶を占う。¹⁻¹⁾

長い時間と労力をかけて準備が行われ、地域で大切にされている行事。



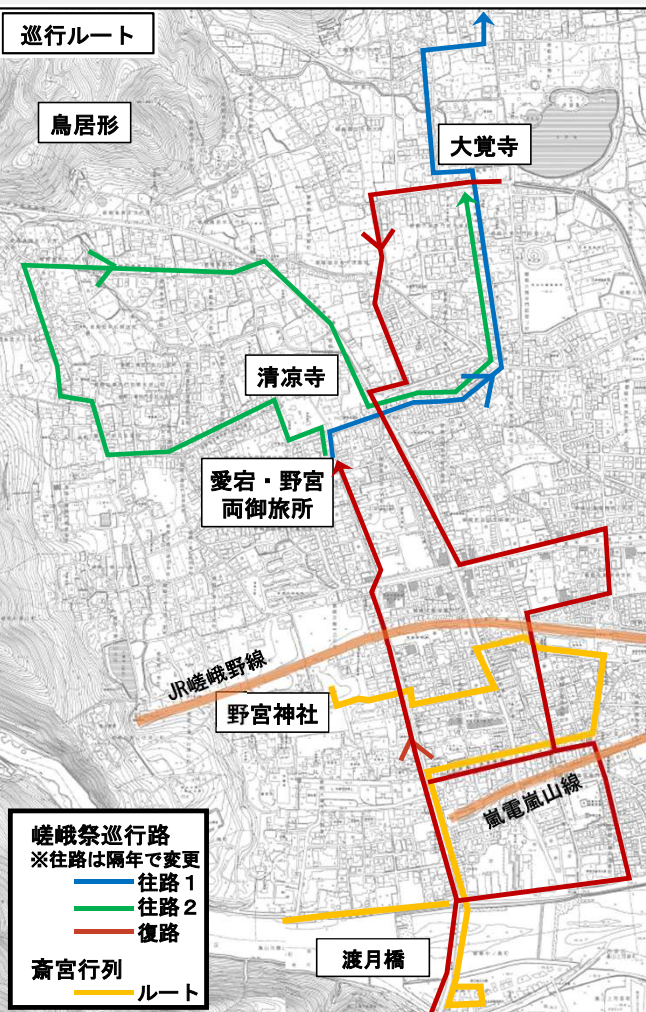
お松明式の準備は、年明けの1月5日ごろから始まる。前年の5月ごろに藤の花が咲くを見て、入る山の場所の検討を行っている。

送り火と同時に見ることができ、幻想的な雰囲気。渡月橋からの眺望が特に美しい。

【特徴】

- ・「嵯峨」の名は、唐の長安の郊外の景勝の地である嵯峨山からとったとも、背面の山々が「険しい（さがしい）」から派生したともいわれている。
- ・平安時代以前から存在する愛宕神社や、皇族や貴族の山荘に続き建てられた寺院などにまつわる祭事が今も受け継がれている。

巡行ルート



嵯峨祭巡行路
※往路は隔年で変更
— 往路1
— 往路2
— 復路
— 斎宮行列
— ルート

地域活動

嵯峨自治会連合会（28町内）

祭事・伝統文化などの地域活動に取り組んでいる。



嵐山灯籠流し

毎年五山送り火の日没後に行われる。渡月橋の東側より精霊送りの灯籠が流され、ご先祖を見送る厳かな行事である。¹⁻²⁾ 写真:1-3)

伝統文化



清凉寺 嵯峨大念佛狂言

年に数回、清凉寺境内の狂言堂で行われる。演者も囃子も裏方もすべて民間人の手で行われる、セリフのない「無言劇」である。^{1-4, 1-5)}

京都の三大念佛狂言の一つで、国の重要無形民俗文化財である。



大覚寺 観月の夕べ

毎年中秋の名月の前後に開かれる行事。龍頭舟、屋形舟などの観月舟が大沢池に浮かび、琴や尺八の調べが流れる。¹⁻⁶⁾



嵯峨天皇が大沢池に舟を浮かべて文化人・貴族を招いた遊びが起源と言われている。



五山送り火 鳥居形松明

毎年8月16日の午後8時20分に点火、嵯峨鳥居本の曼荼羅山に大きな「鳥居形」が浮かび上がる。¹⁻⁷⁾

地域住民が「鳥居形松明保存会」を結成。松明の束を作り、平和安寧の想いを込め火を灯している。

点火の仕方が他の四山とは違い、薪を井桁に組まない。赤松の芯を使用しており、他の送り火よりも赤く燃えるのが特徴。



野宮（ののみや）神社 斎宮行列

毎年10月第3日曜日に行われる。伊勢神宮に仕える斎王が伊勢神宮での神事に向かう「斎王群行」を再現している。¹⁻⁸⁾



清凉寺 送り地藏盆

毎年8月24日に清凉寺境内にある嵯峨薬師寺で行われる。当日は4本の竹が立てられ、この日だけ本堂が御開帳となる。¹⁻⁹⁾

■ 嵯峨学区

2 鳥居本周辺

嵯峨鳥居本

1



嵯峨鳥居本

伝統的建造物群保存地区に指定されており、室町末期ごろに農林業などを主体とした集落として開かれたとされる。江戸時代中頃には愛宕詣での門前町としての性格も加わり、江戸時代末期から明治～大正にかけて、茶店なども立ち並ぶようになった。清涼寺の西門からの愛宕街道沿いには民家が立ち並び、愛宕神社の門前町であった嵯峨鳥居本は多くの参拝客で賑わった。²⁻¹⁾

旧街道の景観を守るため、「電線の地中化」「石畳風舗装」を実現した。



つたや

平野屋

「つたや」「平野屋」の料理茶寮は、四季折々の日本の旧街道の佇まいや風情を感じさせる。

2



嵯峨鳥居本町並み保存館

明治初期に建築された民家を改装して作られた記念館。鳥居本の戦前のジオラマ展示や家屋内部が見学できる。

地域活動

3



小倉山再生プロジェクト

平成25年度に市が策定した事業計画に基づき、地域の方と植樹活動や維持管理活動などを継続的に進めており、近年では多くの観光客が訪れる明るい森へと変化している。²⁻²⁾

凡例：

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

・大宝年間（701～704）に建立されたとされる愛宕神社への街道筋にあたり、古い町並みや社寺が今なお残されている。



寺社

4



化野（あだしの）念仏寺

「あだし」とは、はかない、むなしとの意で、古来より葬送の地であり、人々が石仏を奉った。境内の石仏・石塔は、往古あだしの一帯に葬られた人々の墓である。²⁻³⁾



5

愛宕（おたぎ）念仏寺

大正11年（1922）に東山区から移転。念仏の寺として庶民の信仰を集めた。²⁻⁴⁾



境内には1,200体もの石造の羅漢が並ぶ。²⁻⁴⁾



愛宕山

6



愛宕（あたご）神社

全国に約900社を数える愛宕神社の総本宮として、愛宕山上に位置する。古くより火伏・防火に霊験のある神社として知られている。7/31から夜を徹して8/1に参詣すれば、千日参詣したのと同じご利益があるという「千日詣」が有名で、毎年数万人の参拝客で境内参道が埋め尽くされる。^{2-4, 2-5)}

現在でも、愛宕神社の「火廻要慎（ひのようじん）」の御札を台所に祀る風習が残っている。



愛宕山参道の山麓の入口には愛宕神社の「一の鳥居」がある。

7



愛宕街道

清涼寺門前から鳥居本を経て清滝・愛宕山へ通じる道であり、愛宕神社への参詣路である。古くから月参りの場所として親しまれている。



嵯峨美術大学の学生の協力のもと、毎年地蔵盆の時期に「愛宕古道街道灯し」を開催。

愛宕山鉄道

昭和2年（1927）、愛宕山の愛宕神社へと向かう愛宕山鉄道が建設された。これと同時に山麓や山頂にはリゾート施設なども設置されたが、戦時中に全線が廃線となり、それらの施設も閉鎖された。²⁻⁶⁾



愛宕山鉄道沿線案内図 愛宕駅舎の跡

愛宕山山頂近くには今も廃舎となった愛宕駅舎が残っている。

当時の愛宕山頂の様子

写真：2-6)

■ 嵯峨学区

3 西北部

(清凉寺周辺)

凡例:

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

- ・都からやや離れた地ではあったが、恵まれた自然の美しさがあり、平安初期から皇族や貴族の山荘の地として栄えた。
- ・中世になると、邸宅に加えて大覚寺、亀山殿、天龍寺など大規模な寺院の存在が顕著になり、門前町の発展にもつながった。

町並み

1



清凉寺門前の町並み

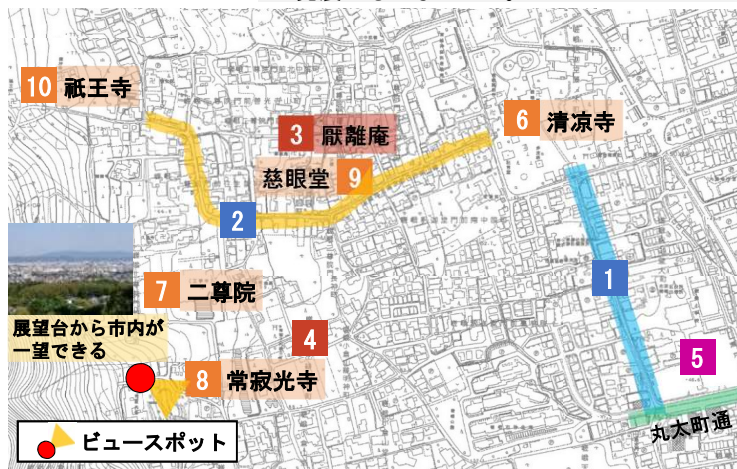
丸太町通から清凉寺に至る参道は、正面に仁王門を臨み、沿道に生垣や樹木の緑、和風の塙、建築物が並び、門前にふさわしい空間をつくりだしている。

2



清凉寺西門から西側の町並み

西門から二尊院へ向かう愛宕街道の一部。沿道の建物は町家や生垣を配した民家が混在した町並みを形成しており、愛宕街道沿道特別修景地域に指定されている。



歴史的資産

3



厭離庵 (えんりあん)

愛宕街道の中ほどにあり、藤原定家が小倉百人一首を撰んだ山荘という。境内には書院のほか、時雨亭、柳の水、藤原定家塚などがある。 (3-2, 3-3)

4



落柿舎

元禄の俳人、向井去来(きょく)の庵。松尾芭蕉が3度も訪れて滞在し、「嵯峨日記」を著した場所としても知られている。現在の庵は江戸時代に再建されたもので、国の登録有形文化財に指定されている。 (3-4)

教育施設

5



嵯峨小学校

天龍寺の塔頭旧招慶院を前身とし、上嵯峨・天龍寺・水尾・原・越畑の5つの村が連合し明治5年(1872)に創立。 (3-5)

銅葺き、破風の玄関屋根は創立当時のものを受け継ぎ保存している。

校章は大覚寺の寺章を受け継ぎ、「嵯峨」の2文字の「やまへん」を上下に重ね、桜の花で囲んだもの。

明治時代の校舎の様子

寺社

6



清凉寺

浄土宗の寺院で、山号は五台山と称する。嵯峨釈迦堂の名で知られ「融通念仏の道場」としても知られている。「木造釈迦如来立像および像内納入品」などの多くの国宝や重要文化財なども安置されており、毎年3月15日には涅槃会とお松明式が行われている。 (3-2, 3-3, 3-6)

7



二尊院

寺名は「釈迦如来」と「阿弥陀如来」の二如来像に由来する。本尊二尊は重要文化財に指定されており、その他多くの寺宝が京都市の文化財に指定されている。 (3-2, 3-7)

8



常寂光寺

11月中旬ごろに境内の紅葉は深紅や黄色に染まり、一年中で最も華やかな季節となる。

9



慈眼堂 (じげんどう)

愛宕街道に建つ御堂で、室内には藤原定家の念仏寺と伝わる千手観音立像が安置されている。 (3-8)

現在は中院町の町会所としても使われている。嵯峨野の歴史や文化を伝える貴重な建物。

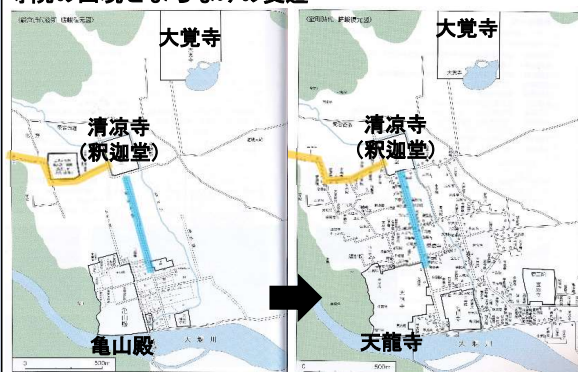
10



祇王寺

苔の庭で知られる尼寺。明治時代初期に一時廃寺となるが、明治28年(1895)に復興。 (3-2, 3-3, 3-9)

寺院の出現とまちなみの変遷

鎌倉時代後期
嵯峨復元図 (3-1)

鎌倉時代後期ごろには、清凉寺や大覚寺において徐々に都市空間が始め、清凉寺は釈迦堂として貴族から庶民まで幅広い人々の信仰の場として賑わった。亀山殿、釈迦堂、大覚寺を中核とし、その周りに寺社や貴族・武家の邸宅が進出し発展していった。

室町時代には天龍寺をはじめとする巨大寺院が出現していることがわかる。民家の数も増え、都市空間のさらなる広がりがみられる。 (3-1)

室町時代
嵯峨復元図 (3-1)

■嵯峨学区

4 北東部

(大覚寺周辺)

凡例:

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

・遍照寺山(嵯峨富士)を背景に広がる田園風景とそこに散在する寺院や町家、古民家などが、古くから隠棲の地として知られた物さびた風情を今に残している。

町並み

1



大覚寺門前の町並み

比較規模の大きい住宅が建ち並ぶ。沿道には生垣や和風の塀、伝統的な門構えの風趣ある和風空間を醸し出している。

2



茅葺き屋根が残る町並み

大覚寺周辺には、茅葺き屋根の民家が散見され、周辺の農地とあわせ、嵯峨野の風情を今に残している。

自然・環境

3



大沢池

庭湖とも呼ばれ、平安前期の様式を伝える日本最古の人工林泉である。堰堤には楓、桜、松が植えられ、国指定の名勝地となっている。⁴⁻¹⁾

4



大沢池附名古昔滝跡

「滝の音は絶えて久しくなりぬれど、名こそ流れてなほ聞こえけれ」と、藤原公任によって百人一首に詠まれた滝跡。^{4-2~4-4)}

5



嵯峨の梅林

大覚寺の大沢池畔の北岸にある梅林。写真: 4-2)

6



有栖川

「有栖」とは体についた穢れを洗い清める川とされており、伊勢神宮に向かう齋宮がみそぎを行っていたといわれる。

6月にはホタルの鑑賞スポットとなる。

地域の人や北嵯峨高校の生徒が河原の清掃を行っている。



7



田園風景

嵯峨野の田園風景は、平安時代の昔から古典文学の舞台としてしばしば登場する。

広がる田園風景と寺社や農家、民家などが融合した美しい景色は、嵯峨野の代表的なイメージとなっている。

れんげを摘む会

美しい田園景観が残る北嵯峨地域で、毎年4月下旬ごろに開催される。

8



広沢池

かつては灌漑用として田んぼを潤していたが、近年は鯉の養殖など養魚地として活用されている。西岸には人口島「観音島」があり、島の内部には石像の千手観音像が祀られている。^{4-3, 4-5)}

広沢の池の水を全部抜く「鯉揚げ」は嵯峨の冬の風物詩。

寺社

9



大覚寺

平安時代初期に嵯峨天皇の離宮嵯峨院として建立された。「嵯峨離宮」とも呼ばれる。^{4-2, 4-3, 4-6)}

いけばな発祥の寺。「華と心経の寺」として親しまれている。

10



直指庵

竹林の中にある寺院。境内には数多くの木々が植わっており、四季折々の花や紅葉を楽しむことができる。

11

称念寺
静寂な環境と竹林に囲まれた墓所。



12



六道の辻(福生寺跡)

「六道の辻」と刻まれた石碑が立てられている。平安時代には鳥辺野、化野、蓮台野といった埋葬地があり、この辺りは現世と他界の境にあると考えられていた。⁴⁻⁷⁾

歴史・古墳

嵯峨野一帯で強い勢力を誇った秦氏は、6世紀~7世紀初頭にかけて嵯峨野丘陵に古墳を盛んに作り、全国でも有数の古墳群を形成した。⁴⁻⁸⁾

13

嵯峨七つ塚古墳

15

入道塚古墳

17

入道塚古墳

14

円山古墳

16

狐塚古墳

広沢公園内の広沢古墳群

広沢池の南側に3基確認されており、現在は2基が残っている。

■嵯峨学区

5 南部

(天龍寺周辺)

寺社・歴史的資産

1



天龍寺

京都五山制度では第一位であった格式ある禅寺で、世界文化遺産に指定されている。夢窓疎石の作といわれる亀山と嵐山を借景とした庭園が有名。(5-1~5-3)

2



野宮神社

天皇の代理として伊勢神宮に仕える斎王が身を清める場所で、清浄の地を選んで建てられた。(5-4)

3



宝厳院 (ほうごんいん)

天龍寺の塔頭。庭園「獅子吼(ししく)の庭」には、豊丸垣や獅子岩などがある。(5-5)

4



開運毘沙門天

小さな敷地内にお地蔵さんの祠や井戸屋形など複数の建物が建つ。

吉崎稲荷大明神

開運毘沙門天と同じ境内にあり、令和元年(2019)に新しく建立された鳥居の奥に小さな祠が鎮座している。

瀬戸川町では毎月、境内の草むしりなどの清掃とお花をお供えしており、お正月には幕張などお正月飾りをしている。

地蔵盆、お火焚き式では境内に町内の人たちが集まるとともに、嵯峨祭の際にはお接待の場所となる。

5



安倍晴明墓所

角倉稲荷神社

角倉稲荷神社

公園の中にある小さな神社。社殿と背中合わせに安倍晴明墓所がある。

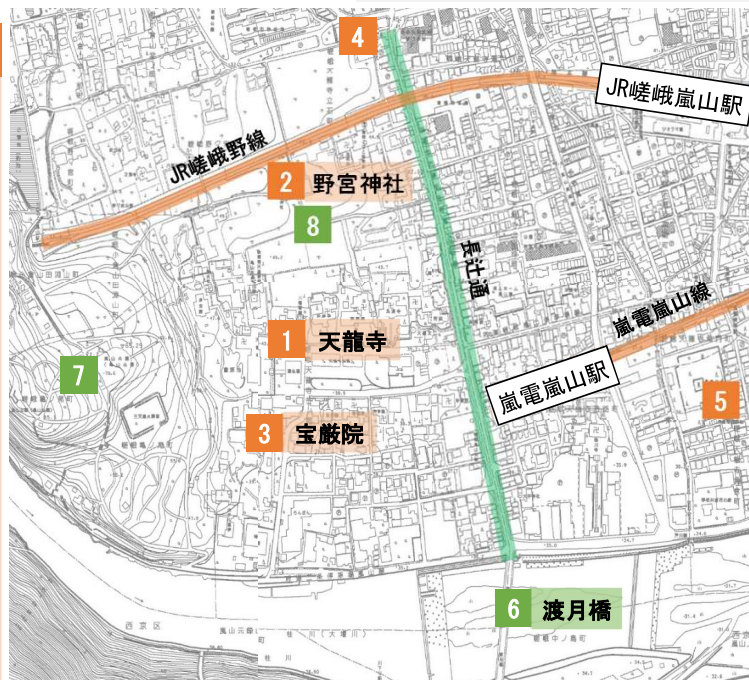
凡例:

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

【周辺の特徴】

- ・天龍寺の盛隆により、寺門前町の発展とともに栄えた地域。
- ・現在は京都市内でも随一の観光スポットとして知られており、国内、海外から多くの観光客が訪れる。



自然・環境

6



渡月橋

桂川にかかる全長155メートルの橋。亀山上皇が橋の上高くを移動していく月をご覧になり、「くまなき月の渡るに似る」と言われたことから名づけられた。(5-2, 5-3)

渡月橋の上に月がかかる様子は、素晴らしい眺め。



鵜飼

渡月橋上流付近で繰り広げられる夏の風物詩。嵐山では昭和24年(1949)に始められた。(5-6)

7



嵐山公園 亀山地区

小倉山南東部の丘陵部。美しい自然が印象的で、広場や展望台などがあり、保津峡を見渡せる。(5-7)

保津川下りの船やトロッキ列車を見る事ができる。



地域活動



嵐山まちづくり協議会

京都市が地域景観づくり協議会として認定し、嵐山の地域の価値を共有するために、地域住民が主体となって景観づくりに取り組んでいる。

嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会

嵯峨商店街・嵐山商店街・嵐山十軒会・嵐山中之島会・嵐山西の会の5つの商店街で構成されており、200店ほどの店舗が加盟。商業者の目線から、嵐山のブランディングと課題解決に取り組んでいる。



リユース容器や食べられる容器、包装の省略など、ゴミの出にくい商店街を目指しており、竹製ゴミ箱の設置を行った。

外国人観光客へ多言語の観光ガイドマップの配布や語学セミナーやポスター等によるマナー啓発も実施。

京都嵐山保勝会

嵐山の観光景勝地の美化の維持・魅力向上のため、昭和9年(1934)、日本で最初に設立された保勝会。国有林嵐山の植生や維持管理を、地域住民と国土交通省森林管理事務所とともに担っている。

若鮎祭、鵜飼い、三船祭、紅葉祭等のイベントも手がける。



毎年、地元の小中高生の森林学習会や植樹、中学生との河川清掃を行っている。

8



嵯峨野 竹林の小径

最も有名なものは、野宮神社から大河内山荘へと続く道。

青竹に囲まれた別世界が体感できる。

1 祭事・伝統文化

- 1-1 「ぐるっと嵯峨」右京区役所地域力推進室
- 1-2 嵐山灯篭流し公式HP (<https://buttoorenmei.sakura.ne.jp>)
- 1-3 「右京区制八十周年記念誌 つながる人のわ」右京区制80周年記念事業実行委員会
- 1-4 「京都大事典」淡交社
- 1-5 嵯峨大念佛狂言WebサイトHP (<http://www.sagakyogen.info/>)
- 1-6 「京都 くらしの大百科」淡交社
- 1-7 「京の大文字ものがたり」松籟社
- 1-8 野宮神社HP (<http://nonomiya.com/>)
- 1-9 薬師寺HP (<http://yotsuba.saiin.net/~saga/yakusiji/>)

2 鳥居本周辺

- 2-1 京都市HP 嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区保存計画 (<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000015494.html>)
- 2-2 京都市HP 小倉山再生プロジェクト (<https://www.city.kyoto.lg.jp/menu4/category/53-30-3-0-0-0-0-0-0.html>)
- 2-3 化野念仏寺HP (<http://www.nenbutsuji.jp/>)
- 2-4 「京都大事典」淡交社
- 2-5 愛宕神社HP (<http://www.atago-jinja.com/>)
- 2-6 「京都嵯峨野誕生物語」象の森書房

3 北西部（清凉寺周辺）

- 3-1 「京都嵯峨野誕生物語」象の森書房
- 3-2 「京都大事典」淡交社
- 3-3 「京都市の地名」平凡社
- 3-4 「柿への旅5俳句の家・落柿舎」岩波書店
- 3-5 京都市立嵯峨小学校沿革史
- 3-6 清凉寺HP (<http://seiryoji.or.jp/>)
- 3-7 二尊院リーフレット
- 3-8 現地駒札
- 3-9 祇王寺HP (<http://www.giouji.or.jp/>)

4 北東部（大覚寺周辺）

- 4-1 「庭園史をあるく日本・ヨーロッパ編」昭和堂
- 4-2 大覚寺HP (<https://www.daikakuji.or.jp/>)
- 4-3 「京都市の地名」平凡社
- 4-4 京都市観光協会 京都観光Navi (https://ja.kyoto.travel/tourism/single02.php?category_id=8&tourism_id=1006)
- 4-5 現地駒札
- 4-6 「京都大事典」淡交社
- 4-7 現地駒札
- 4-8 「京都嵯峨野誕生物語」象の森書房

5 南部（天龍寺周辺）

- 5-1 天龍寺HP (<http://www.tenryuji.com/>)
- 5-2 「京都大事典」淡交社
- 5-3 「京都市の地名」平凡社
- 5-4 野宮神社HP (<http://nonomiya.com/>)
- 5-5 宝厳院HP (<http://www.hogonin.jp/>)
- 5-6 「京都 くらしの大百科」淡交社
- 5-7 京都府HP 嵐山公園・嵐山東公園 (<http://www.pref.kyoto.jp/koen-annai/ara.html>)